

環境経営レポート

2023年度



発行日：2024年6月7日

(改定日2024年7月11日)

(対象期間：2023年4月1日～2024年3月31日迄)



北陸工場(石川県)



本社・工場(愛知県)

杉国工業株式会社

Sugico
BATTERY LIFT

1. 組織の概要

1. 事業者名及び代表者名
杉国工業株式会社
代表取締役社長 杉浦直樹

2. 所在地

本社・工場	〒444-1225	愛知県安城市和泉町井ノ上3-5
北陸工場	〒929-0454	石川県河北郡津幡町字杉瀬い10番地1
門前工場	〒927-2102	石川県輪島市門前町浦上8-59
東京営業所	〒336-0034	埼玉県さいたま市南区内谷7-16-10

3. 環境管理責任者 板坂勇
連絡先 TEL 076-289-5000
FAX 076-289-5345
E-mail itasaka.isamu@sugiconet.co.jp
4. 連絡先担当先 俵啓介
連絡先 TEL 076-289-5000
FAX 076-289-5345
E-mail tawara.keisuke@sugiconet.co.jp

5. 事業内容
バッテリーフォークリフトの設計・製造・販売

6. 事業規模

生産出荷額	2440百万円
主要製品生産量	1745台
品目	ローリフト
	ハイリフト
	牽引車
	ピッカー
従業員	90名
敷地面積	26,641㎡
延床面積	8,775㎡

2. 対象範囲、レポートの対象期間及び発行日

1. 組織
本社・工場、北陸工場、門前工場、東京営業所
2. 活動
事業内容に同じ
3. レポートの対象期間
2023年4月1日 ～ 2024年3月31日
4. レポートの発行日
2024年6月7日

3. 環境経営方針

環境理念

杉国工業株式会社は、誰でも使用できる安全で簡単な取扱いと、地球エネルギーを大切にする、人と環境にやさしい電動リフトの専門メーカーとして、事業活動のあらゆる分野において、また、自主的にかつ積極的に全従業員参加のもとに環境改善活動を推進します。

行動指針

1. エコアクション21に準拠した環境経営システムを構築し、事業活動における環境活動を常に認識し、環境経営システムの継続的改善と、汚染の未然防止に努めます。
2. 環境関連法規制及び受け入れを決めたその他の環境関連要求事項を整理し遵守します。
3. 当社の事業内容から次の活動に取り組み、環境負荷の低減を図ります。
 - (1) 省資源、省エネ、リサイクル等、環境に配慮した製品の継続的創出、提供に努めます。
 - (2) 化学物質の適正管理、環境負荷の軽減に努めます。
 - (3) 電力等、エネルギーの有効利用を促進し、二酸化炭素排出削減に努めます。
 - (4) 廃棄物発生の抑制とリサイクルの推進に努めます。
 - (5) 水使用削減に努めます。
 - (6) 製品設計および製造工程の見直しにより、効率的な生産活動に努めます。
 - (7) 品質向上による不良率の削減に努めます。
4. この方針を具体的に推進するために、環境経営目標を設定し、達成への計画を実行します。
5. この環境経営方針は、環境教育や社内広報活動を通じ、全従業員に周知し、環境意識の高揚に努めるとともに、社外にも積極的に開示します。

制定日 2018年4月2日

改定日 2019年6月24日

杉国工業株式会社

代表取締役社長

杉浦 直樹

4. 環境経営目標

原単位の基本

2022年度	生産量(t)	1,347
--------	--------	-------

作成2023年5月27日	
作成	伊澤健二・岡島一郎
承認	板坂勇

環境経営方針の項目	取組の項目		単位	年間の削減目標又は取組頻度				
				年度は4月から翌年3月				
				2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
環境配慮製品の創出	環境配慮部品の使用	目標頻度	点/年	0	1	1	1	1
化学物質の適正管理	化学物質の使用量削減	削減目標	%	基準年度	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%
		総量	kg	5,893	5,834	5,881	5,875	5,869
		原単位	kg/t	4.37	4.33	4.37	4.36	4.36
二酸化炭素排出の削減	二酸化炭素排出量の削減	削減目標	%	基準年度	0.5%	1.0%	1.5%	2.0%
		総量	kg-CO2	507,106	504,570	502,035	499,499	496,964
		原単位	kg-CO2/t	376.47	374.59	372.71	370.82	368.94
	電力の使用量削減	削減目標	%	基準年度	1.0%	2.0%	3.0%	4.0%
		総量	kWh	384,557	380,711	376,866	373,020	369,175
		原単位	kWh/t	285.49	282.64	279.78	276.93	274.07
	軽油・ガソリンの使用量削減	削減目標	%	基準年度	0.2%	0.4%	0.6%	0.8%
		総量	L	27,935	27,879	27,823	27,767	27,712
		原単位	L/t	20.74	20.70	20.66	20.61	20.57
	LPG使用量の削減	削減目標	%	基準年度	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%
		総量	kg	86,700	86,613	86,527	86,440	86,353
		原単位	kg/t	64.37	64.30	64.24	64.17	64.11
産業廃棄物の抑制とリサイクルの推進	産業廃棄物の排出量削減	削減目標	%	基準年度	0.2%	0.4%	0.6%	0.8%
		総量	kg	57,060	56,946	56,832	56,718	56,604
		原単位	kg/t	42.36	42.28	42.19	42.11	42.02
	一般廃棄物の削減	削減目標	%	基準年度	0.1%	0.2%	0.3%	0.4%
		目標総量	kg	9,695	9,685	9,676	9,666	9,656
水使用量削減	上水使用量の削減	削減目標	%	基準年度	0.2%	0.4%	0.6%	0.8%
		総量	m ³	1,559	1,556	1,553	1,558	1,558
		原単位	m ³ /t	1.16	1.16	1.15	1.16	1.16
生産効率の向上	設計および製造工程の見直し	削減目標	%	基準年度	0.2%	0.4%	0.6%	0.8%
		総量	総残業時間	3583	3576	3569	3562	3554
		原単位	総残業時間/t	2.66	2.65	2.65	2.64	2.64
不良率の削減	初期不良の削減	目標頻度	件/年	9	8	7	6	5

※電力の二酸化炭素の排出係数は東京エナジーパートナー(テブコ)2022年度の調整排出係数=0.442(kg-CO2/kWh)

ENEOS(JXTGエネルギー)の2022年度の調整後排出係数=0.472(kg-CO2/kWh)

北陸電力の2023年度の調整後排出係数=0.572で計算した。

※2022年のガソリンと軽油の使用割合(ガソリン:軽油=1,377:1,957)は変わらないものとした。

5. 環境経営計画

2023年4月4日作成

取り組み期間 2023年4月1日～2024年3月31日

作成	伊澤健二・岡島一郎
承認	板坂勇

環境経営方針	環境経営目標	取組内容	確認方法	担当部署 (責任者)
環境配慮製品の創出	環境配慮部品の使用	環境配慮部品への切り替え	図面	技術部・営業部 (北陸・本社:徳田) (営業:加藤)
化学物質の適正管理	化学物質の使用量削減	対象物質含有商品の仕入見直し 作業員技術レベルの向上	証明書 手順書	資材課 (本社:鈴木) (北陸:山崎)
二酸化炭素排出の削減	電力の使用量削減	省エネ空調の導入 節電意識の向上	仕様書	製造部 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
	軽油・ガソリンの使用量削減	燃費効率の高い車両を優先的に利用する 燃費効率の高い車両への更新・切替	掲示	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
	LPG使用量の削減	作業員の技術レベル向上	手順書 仕様書	製造部 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
廃棄物発生抑制と リサイクルの推進	産業廃棄物の排出量削減	通函を活用や木製パレットの返却をすること で、木製パレットの削減を図る 刃具管理表を作成し研削を行う	改善提案	資材課 (本社:鈴木) (北陸:山崎)
	一般廃棄物の削減	段ボールを社内で再利用する 新聞紙を緩衝材として再利用する 社内で使う印刷物には裏紙の使用する。	掲示	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
水使用量削減	上水使用量の削減	塗装設備の水質管理の徹底 節水の推進	設備点検	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
生産効率の向上	設計および製造工程の 見直し	改善提案活動の実施 QC活動の継続的实施	改善提案	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
不良率の削減	初期不良の削減	出荷後3か月以内の不良発生件数の削減	報告書	品質管理室 (本社:鷺東) (北陸:嶋田)

教育・訓練の実施について

1. 全従業員を対象に、環境経営方針と実施体制を周知する。また活動を行うメンバーに対して、
環境経営目標・活動経営計画の変更など必要に応じて教育・訓練を行う。
2. 新入社員を対象に、随時環境教育を行う。

6-1. 取組内容

2024年5月18日作成

作 成	伊澤健二・岡島一郎
承 認	板坂勇

環境経営方針	環境経営目標	取組内容	確認方法	担当部署 (責任者)	実施状況
環境配慮製品の創出	環境配慮部品の使用	環境配慮部品への切り替え	図面	技術部・営業部 (本者・北陸:徳田) (営業:加藤)	○
化学物質の適正管理	化学物質の使用量削減	PRTR対象物質混入商品のSDSによる 仕入見直し 作業員技術レベルの向上	SDS 手順書	資材課 (本社:鈴木) (北陸:山崎)	△
二酸化炭素排出の削減	電力の使用量削減	省エネ空調の順次導入中 節電意識の向上を図った	仕様書	製造部 (本社:伊澤) (北陸:岡島)	○
	軽油・ガソリンの使用量削減	燃費効率の高い車両を優先的に利用する 燃費効率の高い車両への更新・切替した	掲示	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)	○
	LPG使用量の削減	作業員の技術レベル向上	手順書 仕様書	製造部 (本社:伊澤) (北陸:岡島)	○
廃棄物発生抑制と リサイクルの推進	産業廃棄物の排出量削減	通函を活用や木製パレットの返却をすること で、木製パレットの削減を図る 刃具管理表を作成し研削を行う	改善提案	資材課 (本社:鈴木) (北陸:山崎)	○
	一般廃棄物の削減	段ボールを社内で再利用した 新聞紙を緩衝材として再利用した 社内で使う印刷物には裏紙を使用した	掲示	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)	○
水使用量削減	上水使用量の削減	塗装設備の水質管理を徹底した 節水意識の向上を図った	設備点検	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)	○
生産効率の向上	設計および製造工程 の見直し	改善提案活動の実施 QC活動の継続的实施	改善提案	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)	○
不良率の削減	初期不良の削減	出荷後3か月以内の不良発生件数の削減	報告書	品質管理室 (本社:鷺東) (北陸:嶋田)	△

※実施状況 ○＝可 △＝一部不可 ×＝不可

6-2. 実施体制

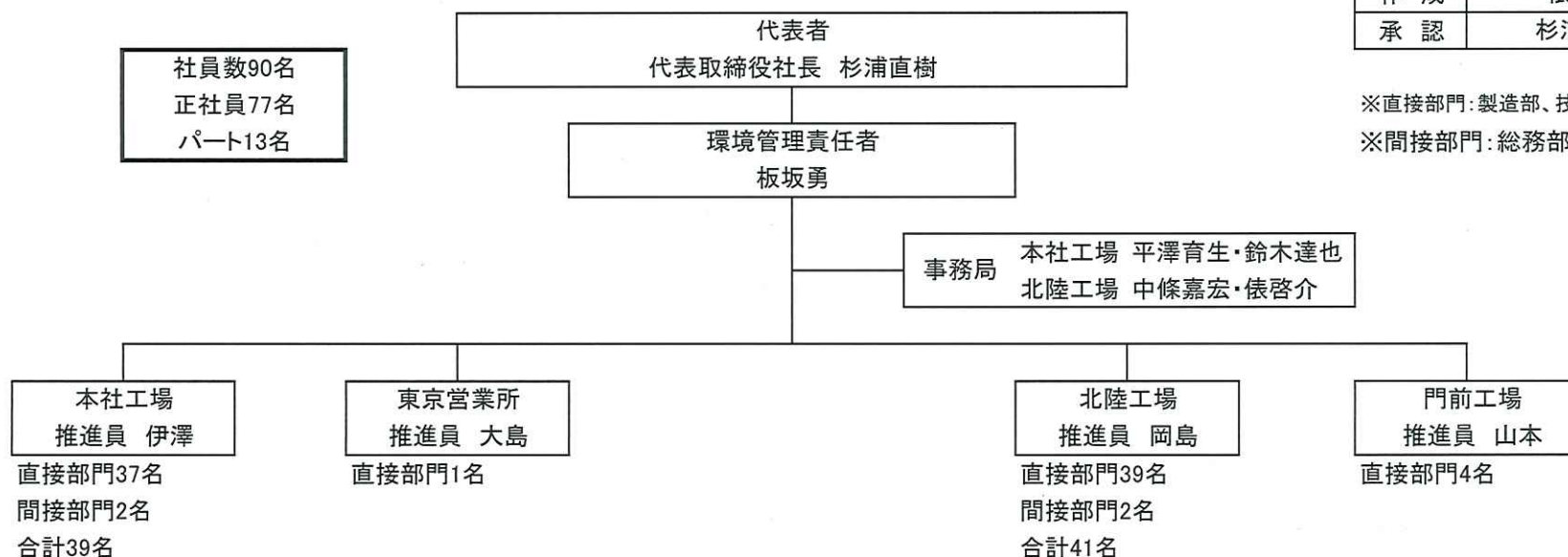
体制図

2023年9月2日作成

作成	俵啓介
承認	杉浦直樹

※直接部門：製造部、技術部、営業部

※間接部門：総務部



役割・責任・権限

役割	担当者	責 任 ・ 権 限	
代表者	杉浦社長	経営における課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境経営目標及び環境経営計画の実施に必要な資源を用意する	環境管理責任者の任命と実施体制の確立 環境経営レポートの承認 全体の評価と見直し・指示
環境管理責任者	板坂勇	環境マネジメントシステムの構築・運用・維持をする 環境経営目標・環境経営計画の評価・確認 是正処置・予防処置の実施を指示し、その結果を確認する	環境教育、緊急事態訓練の実施を指示し、その結果を確認する 環境経営レポートの作成 環境経営の取組結果を代表者へ報告
事務局	平澤育生 俵啓介	環境関連法規のとりまとめ表作成と遵守評価実施 環境経営のデータの収集を行う	環境への負荷の自己チェック表及び環境への取組の自己チェック表の実施 環境関連文書・記録の管理
推進員	伊澤健二 岡島一郎 大島悠太 山本久枝	環境経営目標・環境経営計画書の作成と実施、進捗状況の確認と記録 外部環境情報の窓口	環境問題の発生に対する是正処置・予防処置の実施 教育訓練・緊急事態への定期的訓練の実施

※環境管理責任者と事務局は社員数に含む。

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

7-1.環境経営目標の実績

原単位の基本

2024年6月1日作成

2022年	生産量(t)	1,347
2023年		1,422

作成	平澤育生・俵啓介
承認	板坂勇

環境経営方針の項目	取組の項目	目標種別	単位	年間の削減目標又は取組頻度				
				年度は4月から翌年3月				
				2022年度	2023年度			
				基準年度	目標値	実績値	増減	判定
環境配慮製品の創出	環境配慮部品の使用	頻度	件/年	1	1	1	0件	○
化学物質の適正管理	化学物質の使用量削減	総量	kg	5,893	5,834	6,112	5%	-
		原単位	kg/t	4.37	4.33	4.30	-1%	○
二酸化炭素排出の削減	二酸化炭素排出量の削減	総量	kg-CO2	507,106	504,570	529,795	5%	-
		原単位	kg-CO2/t	376.47	374.59	372.57	-1%	○
	電力の使用量削減	総量	kWh	384,557	380,711	389,057	2%	-
		原単位	kWh/t	285.49	282.64	273.60	-3%	○
	軽油・ガソリンの使用量削減	総量	L	27,935	27,879	28,357	2%	-
		原単位	L/t	20.74	20.70	19.94	-4%	○
	LPG使用量の削減	総量	kg	86,700	86,613	93,395	8%	-
		原単位	kg/t	64.37	64.30	65.68	2%	×
産業廃棄物の抑制とリサイクルの推進	産業廃棄物の排出量削減	総量	kg	57,060	56,946	46,440	-18%	-
		原単位	kg/t	42.36	42.28	32.66	-23%	○
	一般廃棄物の削減	総量	kg	9695	9685	9555	-1%	○
水使用量削減	上水使用量の削減	総量	m ³	1,559	1,556	1,870	20%	-
		原単位	m ³ /t	1.16	1.16	1.32	14%	×
生産効率の向上	設計および製造工程の見直し	総量	総残業時間	3583	3576	2642	-26%	-
		原単位	総残業時間/t	2.66	2.65	1.86	-30%	○
不良率の削減	初期不良の削減	頻度	件/年	9	8	8	0件	○

※判定 ○=目標達成 ×=基準年度以下 △=目標値未達、基準年度以上

※電力の二酸化炭素の排出係数は東京エナジーパートナー(テプコ)2022年度の調整排出係数=0.442(kg-CO2/kWh)
ENEOS(JXTGエネルギー)の2022年度の調整後排出係数=0.472(kg-CO2/kWh)、北陸電力の2023年度の調整後排出係数=0.572で計算した。

※産業廃棄物量は有価物を除く(鉄くず等)とする。

※増減率は目標値に対して実績値で評価する。

※2023年度は塗装カスの汲み取りが未実施の為、産業廃棄物量が大幅減少した。

7-2. 環境経営計画の取組結果とその評価

2024年6月5日作成

作成	俵 啓介
----	------

環境経営目標の評価結果		環境経営計画の取組結果とその評価
環境経営目標	判定	
環境配慮部品の使用	○	部品の変更を行った。
化学物質の使用量削減 適正管理	○	塗装作業者の技術向上により塗装不良が減った。
電力の使用量削減	○	作業効率の改善により残業時間が減るとともに電力使用量が削減された。 節電意識の向上により削減できた。
軽油・ガソリンの使用量削減	○	コロナ禍にともなう営業活動の自粛及び、効率的な営業活動を前年度に引き続き 取り組み、遠方に向かう際は特に省エネ車を優先的に使用した。
LPG使用量の削減	×	猛暑が続き、空調を使用する日が多く増加した。
産業廃棄物の排出量削減	○	昨年同様に刃具管理により加工不良品やドリルの消費を抑えることができた。 特に今年度は塗装カスの汲み取りは未実施の為、排出量が減少した。
一般廃棄物の削減	○	業務全般のペーパーレス化を促進し、紙の排出を抑制した。 段ボールの再利用を促進した。
上水使用量の削減	×	気温が高く塗装ブースでの水使用量が増加した。 本社塗装場新築工事の為に水を使用した。
設計および製造工程の 見直し	○	工程内の検査記録により不具合傾向を管理し不具合の発生を予防し工程遅れを無くし た。
初期不良の削減	○	本社工場は不具合発生時、責任者会議を行い部署内に展開している。 北陸工場は週に一回、朝に北陸工場全員が集まり不具合品について話す機会の継続。 これにより初期不良の減少に繋がっている。

※ ○＝目標達成 ×＝基準年度以下 △＝目標値未達、基準年度以上

※ 評価は総量ではなく、原単位に基づいて行った。

7-3. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画

2024年6月6日作成

作成	伊澤健二・岡島一郎
承認	板坂勇

環境経営目標		環境経営計画	
次年度の目標項目	目標値 (2024年度)	取組項目	担当部署 (責任者)
環境配慮部品の使用	1件	省エネ部品を積極的に採用	技術部・営業部 (本社:小笠原) (北陸:徳田) (営業:加藤)
化学物質の使用量削減	原単位:kg/t 4.26	塗装作業者の作業レベルの向上を図り使用量を削減する。 設備の更新を行う	資材課 (本社:鈴木) (北陸:山崎)
電力の使用量削減	原単位:kWh/t 270.86	機械設備の更新により効率化をはかる。 環境教育の場で節電の意識向上を図る。	製造部 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
軽油・ガソリンの使用量削減	原単位:L/t 19.90	IT機器を利用し、営業活動をリモート化し、車の利用を減らす。 自社便を減らす。	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
LPG使用量の削減	原単位:kg/t 65.61	空調機器、塗装ボイラーの管理を徹底する。	製造部 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
産業廃棄物の排出量削減	原単位:kg/t 32.59	機械作業者のレベル向上を図り不具合品を削減する。 工具の管理を行い、不要な交換、不具合品を削減する。	資材課 (本社:鈴木) (北陸:山崎)
一般廃棄物の削減	総量:kg 9545	業務のデジタル化を図る。	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
水使用量の削減	原単位:m ³ /t 1.31	塗装設備の水質管理を徹底する。 節水意識の向上を図る。	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
設計および製造工程の見直し	総労働時間/生産量 1.85	設計、製造工程の見直しで業務効率の向上を図る。	全社 (本社:伊澤) (北陸:岡島)
初期不良の削減	7件	継続し工場内全員で品質不良品の認識、再発防止について意識向上を図る	品質管理室 (本社:鷺東) (北陸:嶋田)

教育・訓練の実施について

1. 全従業員を対象に、環境経営方針と実施体制を周知する。また活動を行うメンバーに対して、環境経営目標・環境経営計画の変更など必要に応じて教育・訓練を行う。
2. 新入社員を対象に、随時環境教育を行う。

8.環境関連法規などの遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟などの有無

2022年6月2日作成
2023年4月2日遵守確認

作 成	平澤育生・俵啓介
承 認	板坂勇

当社に適用となる主な環境関連法規

分類	法律・条例等	法的要求事項	遵守状況
大気汚染	フロン排出抑制法	第1種特定製品の四半期に1回の簡易点検、および3年に1回の定期点検を行う (圧縮機の定格出力7.5kW以上50kW未満は3年に1回)	○
	県民の生活環境の保全等に関する条例	自動車の必要な整備に努める	○
		アイドリングストップを推進する	○
水質汚濁	下水道法	排除基準を順守する	○
	浄化槽法	指定検査機関の法定検査を受査する	○
		浄化槽の保守点検及び清掃・記録の保管(3年間)	○
騒音	騒音規制法	指定地域内で特定施設を設置／変更／廃止する場合は市町村長へ届出し、規制基準を遵守する	○
振動	振動規制法	指定地域内で特定施設を設置／変更／廃止する場合は市町村長へ届出し、規制基準を遵守する	○
廃棄物	廃掃法	廃棄物収集運搬・処分は届出業者に委託する	○
		産業廃棄物処理業者と委託契約書を取り交わしする。委託契約書を契約終了日から5年間保存する。	○
		産業廃棄物の処理を委託する場合は、産業廃棄物管理票を交付する。産業廃棄物管理票を5年間保存する	○
		産業廃棄物管理票交付状況報告書の4月～3月分を6月末までに報告する	○
		委託処理業が適切処理が行えるか現地確認を行う(年一回)但し処理事業者が優良認定されている場合は現地確認無し	○
リサイクル	特定家庭用機器再商品化法	廃棄物の排出抑制に努める・廃棄する場合は、収集・運搬業者または再商品化等を実施する業者に引渡し、料金を支払う	対象期間内に排出実績なし
	使用済自動車の再資源化等に関する法律	自動車が使用済自動車になったときは、引取業者に当該使用済自動車を引き渡さなければならない	○
PRTR	PRTR法	事業所ごと、化学物質ごとに排出量及び移動量を把握し、毎年度都道府県知事経由主務大臣へ届出する	○
		PRTR法に定める第一種化学物質の取扱量を常に把握する	○
危険物	消防法	少量危険物の取扱いは市町村条例による・貯蔵所または取扱所を設置／変更／廃止する場合は市町村長へ届出する。貯蔵所に掲示板を設置する	○
	毒物及び劇物取り扱い方	盗難紛失漏えい流出の防止用貯蔵庫の設置	○

環境関連法規への違反、訴訟の有無

環境関連法規への違反はありませんでした。なお、関係当局より違反等の指摘は過去3年間ありません。また、近隣住民からの苦情等は発生しておらず、訴訟もありません。

○・・・遵守している △・・・一部実施していない ×・・・遵守していない

9. 代表者による全体の評価と見直し・指示

2024年6月7日作成

環境管理責任者

板坂勇

1. 環境経営目標の達成状況

環境経営活動内容	達成状況	取組内容
【目標達成】環境配慮製品の創出	○	部品の変更を行った。
化学物質の使用量削減	○	塗装作業者の技術向上により塗装不良が減った。
電力の使用量削減	○	作業効率の改善により残業時間が減るとともに電力使用量が削減された。
軽油・ガソリンの使用量削減	○	効率的な営業活動を前年度に引き続き取り組み、省エネ車を優先的に使用した。
初期不良の削減	○	【本社】不具合発生時、責任者会議を行い展開。 【北陸】週に一度、朝に全員で不具合品についての話し合いを継続。
産業廃棄物の排出量削減	○	昨年に続き刃具管理により加工不良品やドリルの消費を抑えることが出来た。今年度は塗装カスの汲み取りは未実施の為、減少した。
一般廃棄物の削減	○	業務全般のペーパーレス化を促進し、紙の排出を抑制した。
設計および製造工程の見直し	○	不具合の発生を予防し工程遅れを無くし達成。
【目標未達】LPG使用量の削減	×	寒暖差が激しく空調の使用期間が長くなった。
上水使用量の削減	×	気温が高く塗装ブースでの水使用量が増加した。 本社塗装場新築工事の為に水を使用した。

2. 環境経営計画の実施結果

環境経営活動内容	実施結果	取組内容
環境配慮製品の創出	○	部品の変更を行った。
化学物質の使用量削減	○	塗装作業者の技術向上により塗装不良が減った。
電力の使用量削減	○	作業効率の改善により残業時間が減るとともに電力使用量が削減された。
軽油・ガソリンの使用量削減	○	効率的な営業活動を前年度に引き続き取り組み、省エネ車を優先的に使用した。
LPG使用量の削減	×	1年を通じて寒暖の差が激しく空調の使用期間が長くなった。
産業廃棄物の排出量削減	○	昨年に続き刃具管理により加工不良品やドリルの消費を抑えることが出来た。今年度は塗装カスの汲み取りは未実施の為、減少した。
上水使用量の削減	×	気温が高く塗装ブースでの水使用量が増加した。 本社塗装場新築工事の為に水を使用した。
設計および製造工程の見直し	○	不具合の発生を予防し工程遅れを無くし達成。
初期不良の削減	○	各拠点で不具合について話す機会を作り共有できた。
一般廃棄物の削減	○	業務全般のペーパーレス化を促進し削減できた。
課題	①環境配慮部品について環境負荷の大きい部品リストを作成すること ②塗料濃度の変更など工程をチェックし手順書の作成を行うこと ③初期不良の傾向と要因分析を引き続き行うこと	

3. 環境関連法規等の遵守状況

違反、訴訟はありませんでした。

4. 外部からの環境関連の苦情や要望

外部からの環境関連の苦情や要望はありませんでした。

代表者による変更等の見直し

2024年6月7日作成

環境経営方針の変更	☐ 有	☒ 無	
環境経営目標の変更	☒ 有	☐ 無	2023年度を基準に設定
環境経営計画の変更	☐ 有	☒ 無	
実施体制	☐ 有	☒ 無	
環境経営システムの変更	☐ 有	☒ 無	
その他変更の必要な項目	☐ 有	☒ 無	